

保護者各位

平成28年3月24日

北海道小樽潮陵高等学校長
湯田 恭 丈

平成27年度 生徒による授業評価の実施結果について（ご報告）

春暖の候 皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜わり、心よりお礼申し上げます。

さて、生徒による授業評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。これは、

- ① 生徒が、自らの学習状況を振り返ることで、よりよい学習習慣を身につける契機とする。
- ② 教員が、生徒の授業の受け止め方を把握することで、指導計画や方法の改善に活かす。
- ③ 学校が、教育活動に係わる情報を公開することで、地域に開かれた学校づくりを推進する。

ことを目的に、2月下旬に全校生徒を対象に実施したものです。

生徒が受けている全教科について、

- A 授業はわかりやすく進められていますか。
- B 授業を受けて、この科目に対する興味や関心、意欲が高まりましたか。
- C 授業を受けて、自分自身の学力や技能の向上を実感できますか。
- D あなたは、授業の内容がわかるように、できるように努めていますか。

の4項目について、

- 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

の四者択一で回答を求め、特に要望のある科目に対し、自由に意見を記述してもらいました。

自由記述は教科担任が目を通し、今後の授業に活かしていきます。

上記質問項目 A～D に対する学年毎の回答状況は次のとおりです。

1 学年

	H27 後期	国語・数学・社会・理科・英語				保健体育・芸術・家庭			
	質 問 項 目	1	2	3	4	1	2	3	4
1 年	A 授業のわかりやすさ	40.5%	42.8%	13.8%	2.8%	45.2%	43.2%	9.8%	1.8%
	B 興味・関心・意欲の高まり	28.2%	37.9%	26.9%	7.1%	35.6%	37.0%	20.1%	7.4%
	C 学力・技能向上の実感	22.3%	42.4%	28.6%	6.7%	28.2%	40.4%	24.8%	6.6%
	D 授業を理解する努力	31.4%	50.0%	16.1%	2.5%	36.5%	43.4%	17.4%	2.7%

2 学年（文理別）

	H27 後期	国語・数学・社会・理科・英語				保健体育・芸術・情報			
	質 問 項 目	1	2	3	4	1	2	3	4
2 年 文系	A 授業のわかりやすさ	45.6%	41.2%	10.9%	2.3%	39.9%	42.7%	14.7%	2.6%
	B 興味・関心・意欲の高まり	33.1%	44.2%	19.8%	3.0%	30.2%	38.7%	24.8%	6.3%
	C 学力・技能向上の実感	28.3%	49.2%	19.5%	3.0%	27.8%	41.7%	22.4%	8.1%
	D 授業を理解する努力	35.7%	51.2%	11.6%	1.5%	33.1%	47.0%	15.9%	4.0%

	H27 後期	国語・数学・社会・理科・英語				保健体育・情報			
	質 問 項 目	1	2	3	4	1	2	3	4
2 年 理系	A 授業のわかりやすさ	42.9%	39.8%	13.5%	3.8%	45.6%	48.3%	5.4%	0.6%
	B 興味・関心・意欲の高まり	26.4%	43.9%	23.8%	5.9%	30.0%	46.2%	18.3%	5.4%
	C 学力・技能向上の実感	23.0%	49.2%	23.4%	4.4%	29.1%	48.6%	18.3%	3.9%
	D 授業を理解する努力	30.9%	50.7%	16.2%	2.2%	31.4%	50.8%	15.6%	2.4%

各教科からの対応は次の通りです。

1. 国語科

○集計結果について

「授業のわかりやすさ」について、2学年とも90%近くの生徒が肯定的評価をしていて、前期とほぼ同じ数値であった。「興味・関心・意欲の高まり」「学力・技術向上の実感」については1年生については肯定的評価がほぼ横ばいであり、2年生では約5～10%の上昇がみられた。1年生に関しては、教材が現代文では抽象的な教材が増え、古典は古典文法・漢文句法などの領域の学習が広がっていく時期なので、領域に対する抵抗感が関係している可能性がある。2年生で数字が上昇したのは、授業の方向性は大きく変えていないので、生徒が教材のレベルや文法領域の学習にある程度慣れてきたことが考えられる。国語の実力伸長には絶対的に基礎的知識の積み上げが必要なので、単純に授業評価の数値にとらわれすぎず、粘り強く知識を獲得する努力を生徒に促していきたい。

○学力や技術の向上を目指して教科としてどのように取り組むか。

古典については、単語・文法・句法暗記・読解力の養成が主となるが、その際の小テスト、課題テストの扱い方や教科書教材以外の教材の活用の仕方を工夫したい。また、課題等も含め、たくさんの古典の作品にふれさせながら、古典の面白さを味あわせたい。

現代文は、前期の反省でも記述したが、教材と生徒の言語環境の乖離や高校前までの知識蓄積の量の生徒間の格差もあり、容易には学力・技術向上実感が持たせづらい科目ではある。しかし、できるだけ生徒が教材内容を身近な問題と捉えられるよう、グループ学習や事前課題の学習をよりさせていきたい。また、文章構造を論理的に捉え、文章の接続などに注意を向けながら、正確な読みをする力を身に付けさせたい。

○自由記述欄での特筆すべき意見や要望とその対策

板書に対する要望など、すぐに改善できるものについては実行したい。

教科担任間の連絡を充分にとり、指導事項の焦点化を行うことで、学習のポイントを明確にする。

2. 地歴・公民科

○集計結果について

【1年世界史】・「授業のわかりやすさ」については向上がみられた。

・「学力・技能向上の実感」や「興味・関心・意欲の高まり」はいまひとつの感がある。・共通課題（問題）についてはしっかり回収できた。

・授業の出だしに共通課題（問題）を使った復習などを取り入れた。

【2年日本史】・前期はいまひとつの観点もあったが改善された。

・「学力・技能向上の実感」については十分でない点もあった。

【2年地理】・全般的によい結果であった。

・「学力・技能向上の実感」については模試の結果がよかったこともあり評価が高かったと思う。

・アクティブ・ラーニングを取り入れたが生徒もよく取り組んでくれ、効果的であった。

【2年倫理】・抽象的な用語に当初戸惑った生徒もいたが、しだいに取り組めるようになってきた。

【2年現代社会】・年度末にシュミレーションゲームなどアクティブ・ラーニングを取り入れた。次年度は、よりアクティブ・ラーニングを展開したい。

○次年度に向けた取り組み

【1年世界史】・もっと視聴覚教材を使いたい。

【2年日本史】・「学力・技能向上の実感」が出来るよう改善したい。

【2年地理】・アクティブ・ラーニングを取り入れたい。

【2年現代社会】・次年度は、よりアクティブ・ラーニングを展開したい。

○その他

・地歴分野はともかく、公民分野については、新聞を読まない生徒に興味を持たせるのはとても難しい。しかし、何か工夫してそのような生徒にも興味関心を持たせるようにしたい。

3. 数学科

○集計結果について

1学年2学年ともに「授業がわかりやすい」と回答した生徒が約8割と総じて高く、さらに前期と比較するとこの層の生徒の割合がやや増加した。この結果から、前期の授業評価を生かし授業を実践したことによる効果が多かれ

少なかれ出たものと思われる。また、「授業を理解する努力」について、両学年ともに約9割の生徒が「そう思う」・「ややそう思う」と回答しており、こちらも前期よりもわずかではあるが増加していた。年度の後半になるにつれ、危機感を持って授業に取り組む生徒が増えている現状が推察できる。さらに、「興味・関心・意欲の高まり」、「学力・技術の向上の実感」に関しても、「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と回答する生徒が前期は約3割だったが、後期は3割〜2割に減少している。このような結果から、授業の取り組みに対し一定の効果が出ていると感じているが、来年度以降もよりよい授業が展開できよう努めていきたい。

○学力向上を目指した教科としての次年度に向けた取り組み

このような結果が出たものの、数学を苦手としている生徒が少なくないのも事実である。来年度は、数学を学習する中で出会うさまざまな見方や考え方の大切さを伝えていく一方で、教材選びや教授方法を研鑽し、1年間を通して確かな学力の定着に向けた取り組みを実践していきたい。

4. 理科

○ 集計結果について

「授業のわかりやすさ」、「興味・関心・意欲の高まり」については、全学年において7割以上のプラス評価であった。しかし、「学力・技能向上の実感」が低くなっていた。この傾向は数年来のものである。生徒に真の学力を身に付けさせるためには、生徒の主體的な学習の取り組みも必要な事から、授業においてもこの点を重視して指導していきたい。

5. 英語科

○1学年

コミュニケーション英語Ⅰ、英語表現Ⅰ、両科目とも「授業のわかりやすさ」及び「授業を理解する努力」は高い評価を得ている。それに比べ、「興味・関心・意欲の高まり」と「学力・技能向上の実感」が若干低くなっている。つまり、授業は分かるし、自分でも努力をしているが、勉強への意欲がなかなかかわず英語力向上の実感もありないという生徒が多いようである。今後はこれまで以上にスピーキングやライティングによって学んだことを使える場面、表現できる場面を多くし、技能向上の実感が得られるよう工夫改善していきたい。

○2学年

2年生の英語については各科目とも「授業のわかりやすさ」及び「授業を理解する努力」は概ね高い評価になっている。それと比べて「興味・関心・意欲の高まり」「学力・技術向上の実感」の数字が若干低くなっている。3年次では受験英語と実際に使える英語という両輪をバランス良く育成できるように授業構成を工夫し、改善を図りたい。

6. 保健体育科

○集計結果について

概ね各評価項目で高評価であったが、1学年に比較し2学年で少し評価の割合が低下の傾向にあった。これに関しては、授業時間数が1学年より2学年は少ないため、内容の深まりが若干浅く、生徒の興味・関心を強く引き出すに至らなかったと思われる。

○次年度に向けた取り組み

上記の集計結果に甘んずることなく、興味・関心がさらに湧くようなポイントを絞った指導方法を教科内で検討するとともに、体力向上や技術習得・技能向上は一朝一夕で身に付くものではないので、効率的な指導方法の研修に努めていきたい。

7. 芸術科（音楽・美術・書道）

（音楽）

○ 集計結果について

授業で学ぶ学習内容としては、歌唱・器楽演奏・創作・音楽理論・鑑賞など、幅広い分野・ジャンルを取り扱っています。それぞれの分野の継続性・系統性を大切にしながら、可能な限りバランス良く取り扱いたいと考えています。また、技術や表現、知識の向上がより実感できるよう、授業もしくは教材ごとの到達目標、評価の観点をより明確にしていきたいと考えています。

内容には、それぞれ得意もしくは不得意な分野があるかと思います。また、比較的短期間で身につく内容もあれば、長い時間、労力をかけて習得する内容もあります。得意な分野ではより一層高い意欲で取り組むことができるよう、不得意と感じる分野であっても、少しでも取り組む意欲や興味関心をかき立てられるよう、適切な指導方法・

練習方法を工夫しながら、表現や学習効果が高まるように工夫していきます。

表現分野においては、生徒によるグループワークを主体とした授業展開が多くあります。グループの仲間と協力して取り組み、よいところを吸収しながら技能や表現の向上を図り、自分の学習活動に生かせるよう、前向きに取り組むことを期待しています。

「学力の向上を目指した次年度に向けた取り組み」に関して、芸術の各科目は「学力や技術の向上」のみを追求する教科ではありませんが、実技の内容によっては技術が身につくとともに表現も深まる、もしくは基礎的な技術を身につけてから表現に踏み込める、ということがあります。これらを意識しながら、習熟段階に応じた授業を展開したいと思います。

（美術）

○ 集計結果について

概ね「わかりやすい」という評価と判断していますが、実物や見本、映像などを可能な限り用いるなど、より具体的でわかりやすい授業を目指します。一方で、あまり過度の情報を与えてしまうことで、生徒の「想像する力」や「創造する力」の育成に影響が出ないよう、十分に注意しながらの指導を心がけます。

○ 学力や技能の向上を目指して教科としての次年度に向けた取り組み

「学力や技能の向上」のみを目指す教科ではありませんが、技能の向上が制作への動機付けとなる場面もあることから、そのことを意識しつつ、授業改善に取り組んで行きます。

作品完成後の合評会を充実させたり、完成した作品の廊下等への展示方法に工夫を凝らすなど、お互いの作品を鑑賞し合いながら、相互に刺激を受け合うことで、次の作品づくりへとつなげていきます。

（書道）

○ 実技系の授業なので、なるべく手を動かして座学とは違った方向から脳を刺激できるようにと考えています。漫然と書くのではなく、自分のイメージを言葉にし、どう表現していくのかということ大切にしようということので授業を行ってきました。技術の向上が感じられるという項目が低かったので、来年度はもっと評価の観点を明確にして、毎時間の授業を行っていきたいと思います。

8. 家庭科

○集計結果について

家庭科は日常生活に関する内容を学ぶ科目であり、小中学校においても基本的な内容は学習しているため、授業の理解度は高めである。後期に入り、実験実習を含めた授業展開であったため、興味・関心は高まったようである。しかし、学力・技能向上という点ではあまり感じる事ができていない。実験実習の内容や学習との関連性を持たせた進め方を考えなければならない。生徒たちがもっと日常生活に関心を持ち、知識・技術を高めて、生きる力を身につけることができよう授業内容を精選して進めていかなければならない。

○教科としての取り組み

1年を通じてバランスよく実験実習を配置できるように、教材の精選、授業内容の扱い方の工夫を行う。知識・技術が定着し、技能向上を確認できるような学習の進め方を考える。生徒が自分自身の生活に興味関心を持ち、自立の力をつけるために、身近な題材を取り入れ、生活を考える機会を増やす。

○その他

説明が早くてわからないことがある。進みが早くて内容確認する時間が短い、という意見が寄せられた。より内容を厳選し、しっかり学習する時間を確保できるようにし、板書を効果的に活用できるように工夫していきたい。

9. 情報科

○集計結果について

後期は教室での座学中心の授業だったため、前期の実習に比べると生徒の興味関心は低くなってしまったが、生徒の理解度は十分目標を達成できたと考えている。

○学力の向上を目指した教科としての次年度に向けた取り組み

今年度はまず実習でPCに親しんだ後、座学で理論学習という形をとったが、来年度は基礎学習をした後、PC実習という従来の形に戻す方向で検討する。

○その他（特別すべき意見や要望への対応等）

近年プログラミング教育を重視する声が高まる中、本校ではドリトルとスタディーノを利用したプログラミング指導を実施している。その中で、生徒からは実務レベルのプログラミング体験を要望する声も上がってきているので、次年度はC言語やJavaScript等も実習に取り入れる。